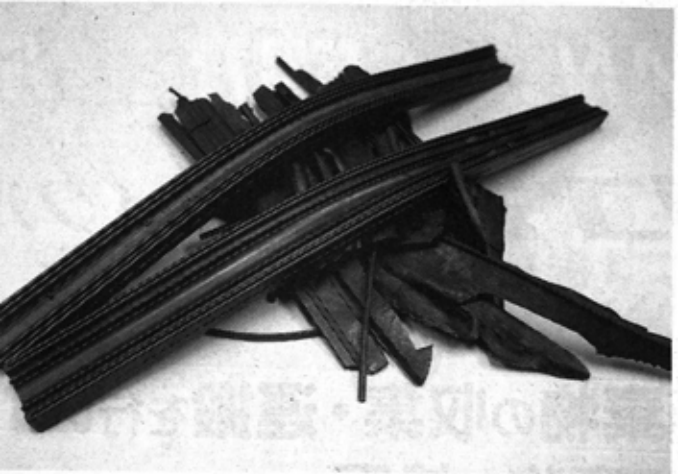


## 加山興業 荷受施設を増設、太陽光で地域貢献 ゴム系廃棄物のR体制構築も

総合リサイクル・廃選別を行う他、原料の棄物処理事業を展開す。保管場所として使用する加山興業（愛知県豊川市、加山順一郎社長、☎0533・89・0375）は、本社工場に新たな荷受け施設を設置した。顧客の増加に伴い効率性を高め、サービス力の向上を図る。また最近では、使用済みゴム製品のリサイクル処理体制を構築。月間約100トのゴム製品原料を生産するなど、意欲的な事業展開を続けている。

増設した施設は、対象品の受け入れと事前



加山興業の処理対象となるゴム製品端材

同社全体で約100トを発電する等、地域への貢献性は高い。

ゴム系廃棄物のリサイクル事業については、2012年8月から開始。さまざまな産業分野から発生するゴム製品端材等を処理し、人工芝用チップとしてマテリアル利用する。本格的な処理体制を整備し、収集体制を強化していく考えだ。

対象は、▽エチレンプロピレンジエンゴム（EPDM）、▽ニトリルゴム（NBR）▽スチレンブタジエンゴム（SBR）の主要な合成ゴム3種と▽天然ゴム（NR）の計4種類。原料の成分分析や金属探知器で異物の除去を徹底する等で信頼性を確保。破碎時に出るダストもRPFの原料としてサーマル利用し、ゼロエミッション型リサイクルを実現している。

昨今の建設好況やオリンピック需要、既設競技場の人工芝貼り替え需要等が見込まれ、メーカー側からの引き合いも強い。今後、同業他社との連携も視野に、東海地域だけでなく北陸や近畿にも範囲を広げていく方針だ。